

## 薩摩硫黄島の火山活動解説資料（平成 20 年 4 月）

福岡管区气象台  
火山監視・情報センター  
鹿児島地方气象台

噴煙活動はやや活発で、地震回数はやや多い状態が続いています。  
硫黄岳火口周辺では噴火に対する警戒が必要です。  
平成 19 年 12 月 1 日に火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

### ○ 4 月の活動概況

#### ・噴煙活動（図 2）

硫黄岳山頂火口の噴煙活動は、やや活発な状態で経過しました。

噴煙は白色で、高さは概ね 200m で経過しました。

#### ・地震、微動活動（図 2、図 3）

地震活動はやや活発な状態で経過しました。

火山性地震の月回数は 173 回（3 月：175 回）とやや多い状態が続いています。

継続時間の短い火山性微動の月回数は 2 回（3 月：2 回）でした。

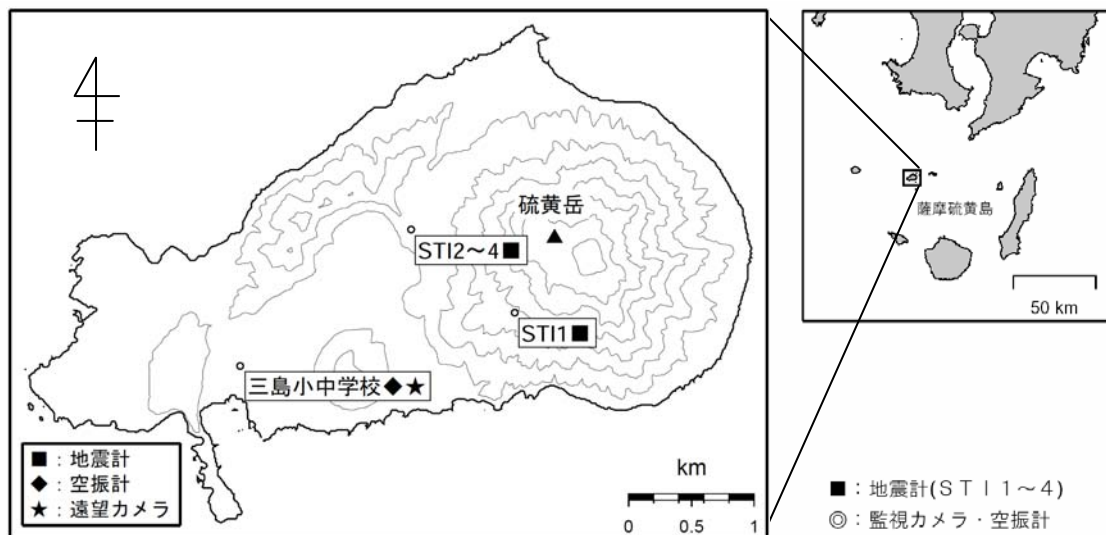


図 1 薩摩硫黄島 観測点配置図

地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 10mメッシュ（火山標高）』を使用しています（承認番号：平 17 総使、第 503 号）。

この火山活動解説資料は、気象庁ホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)、福岡管区气象台ホームページ (<http://www.fukuoka-jma.go.jp/>) でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 20 年 5 月分）は平成 20 年 6 月 6 日に発表予定です。

・熱活動（図 4～7）

機動調査観測による熱映像観測<sup>1)</sup>では、大鉢の一部で高温域がみられました。

機動調査観測による全磁力繰返し観測では、火山活動に起因するとみられる変化はありませんでした。

- 1) 赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感知して温度分布を測定する測器であり、熱源から離れた場所を測定することが出来る利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

\*機動調査観測を 18 日から 23 日にかけて実施しました。

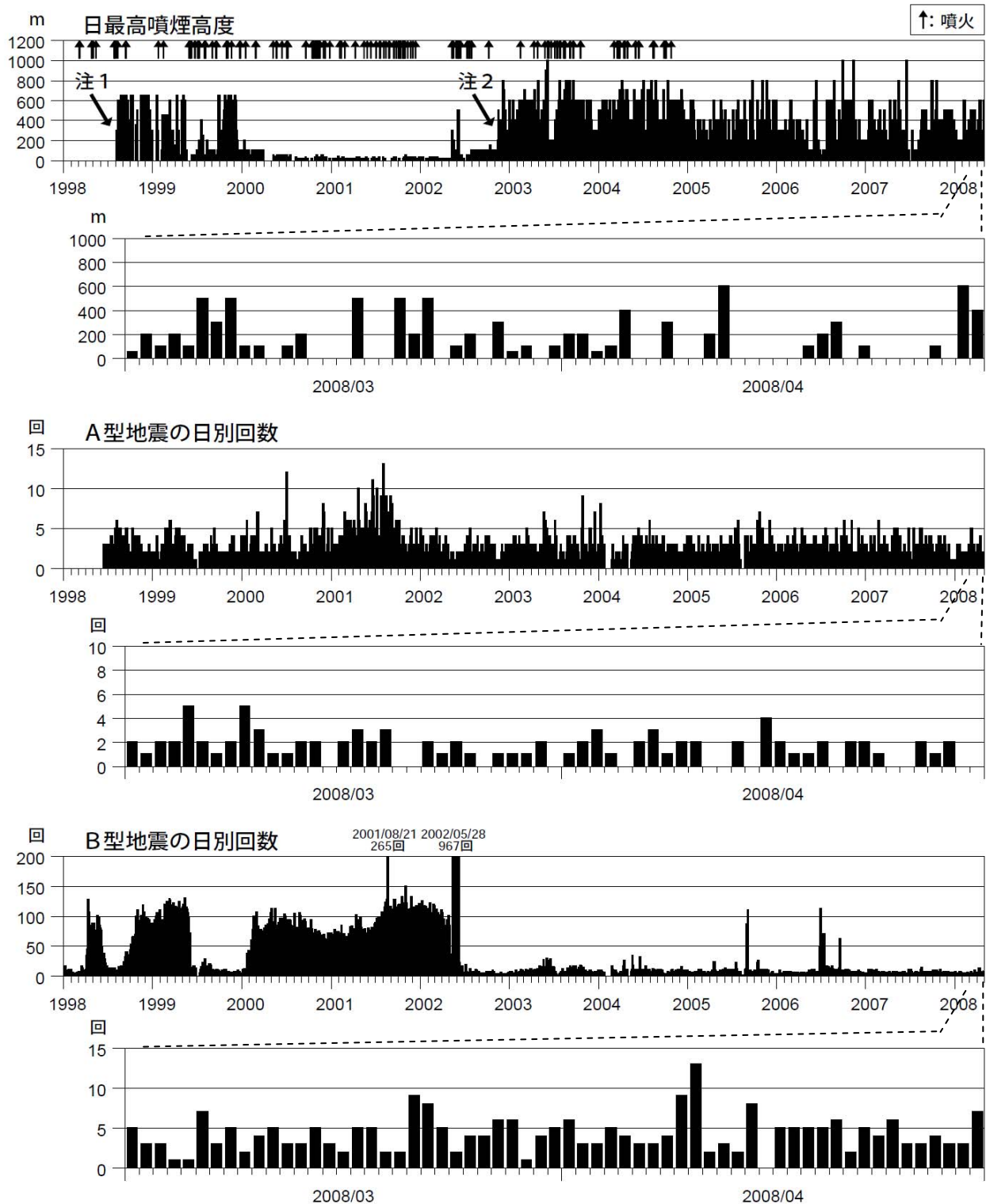


図2 薩摩硫黄島 火山活動経過図(1998年1月～2008年4月)

- ・噴煙は白色で、高さは概ね 200m で推移しました。
- ・A型地震は 39 回(2008年3月: 52回)で、大きな変化はありませんでした。
- ・B型地震は 134 回(2008年3月: 123回)で、大きな変化はありませんでした。

注1 1998年8月1日 三島村役場硫黄島出張所から気象庁へ通報開始。

注2 2002年11月16日 気象庁が設置した監視カメラによる観測開始。

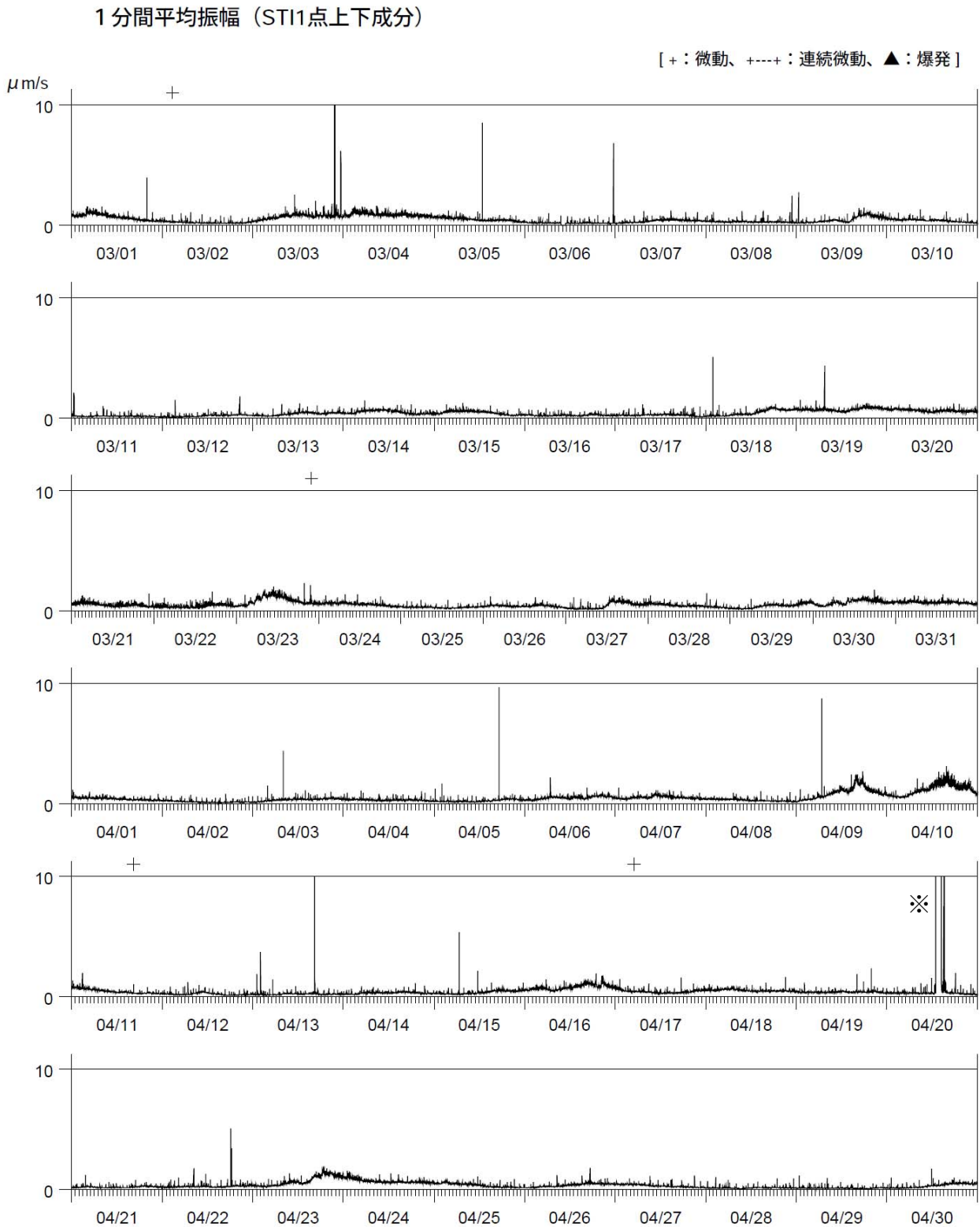


図3 薩摩硫黄島 1分間平均振幅の時間変化（STI1上下成分）（2008年3月～2008年4月）

・ 継続時間の短い火山性微動を2回観測しました。

（※印は機器調整によるノイズです。）

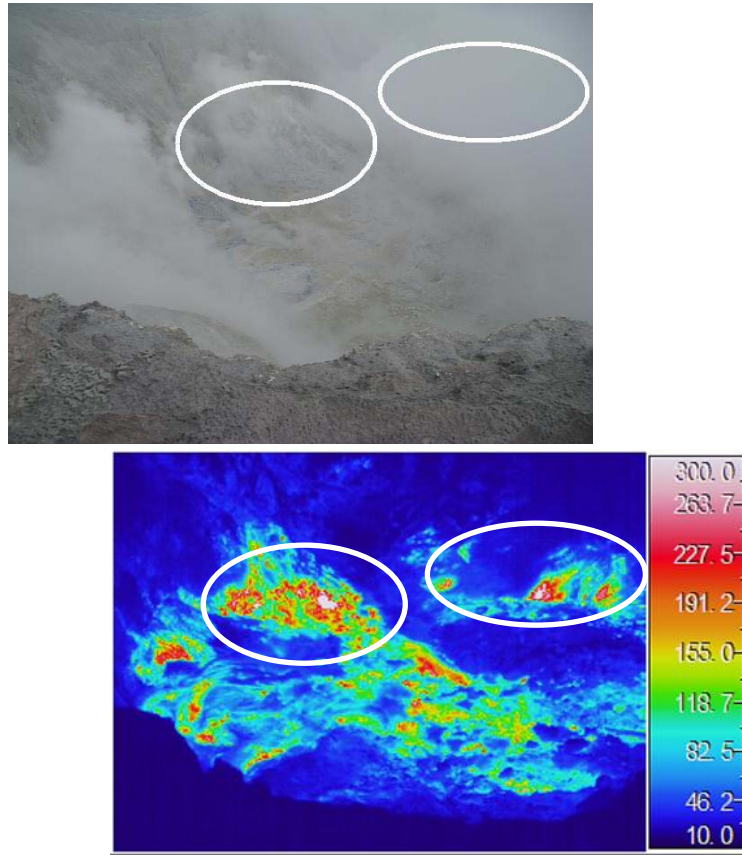


図 4 薩摩硫黄島 上図：定点 1 から硫黄岳山頂火口を撮影（可視画像）  
 下図：赤外熱映像装置により定点 1 から大鉢を撮影  
 ・大鉢の一部で高温域がみられました（図中楕円部分）。  
 ・火山灰の噴出はありませんでした。

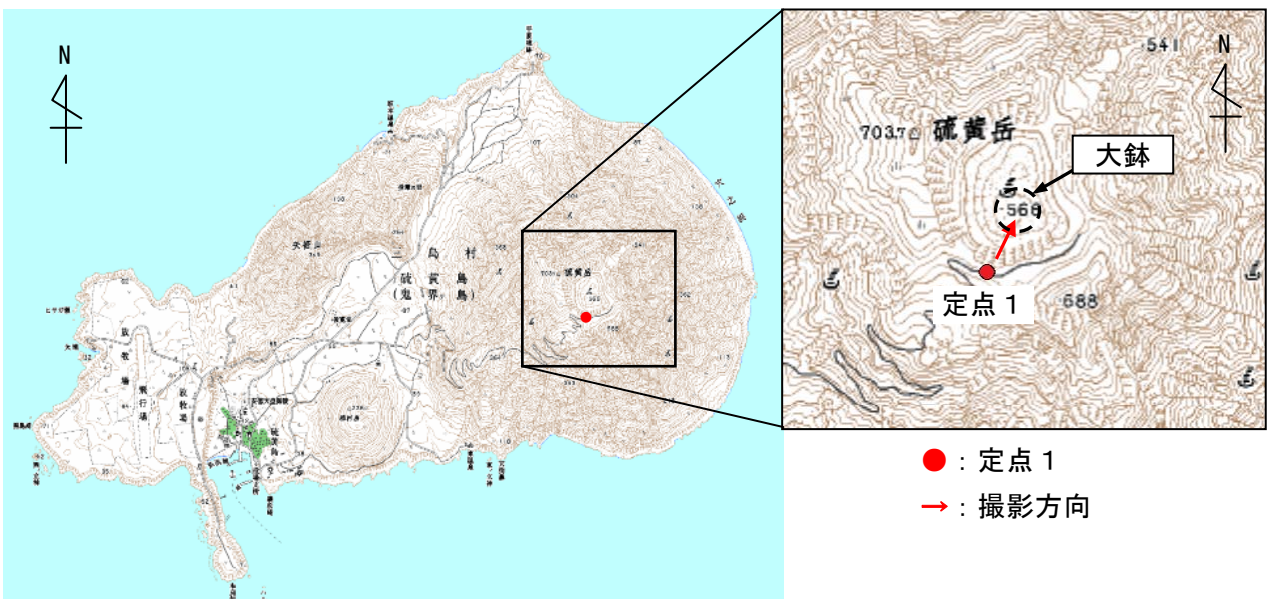


図 5 薩摩硫黄島 熱映像観測点位置図

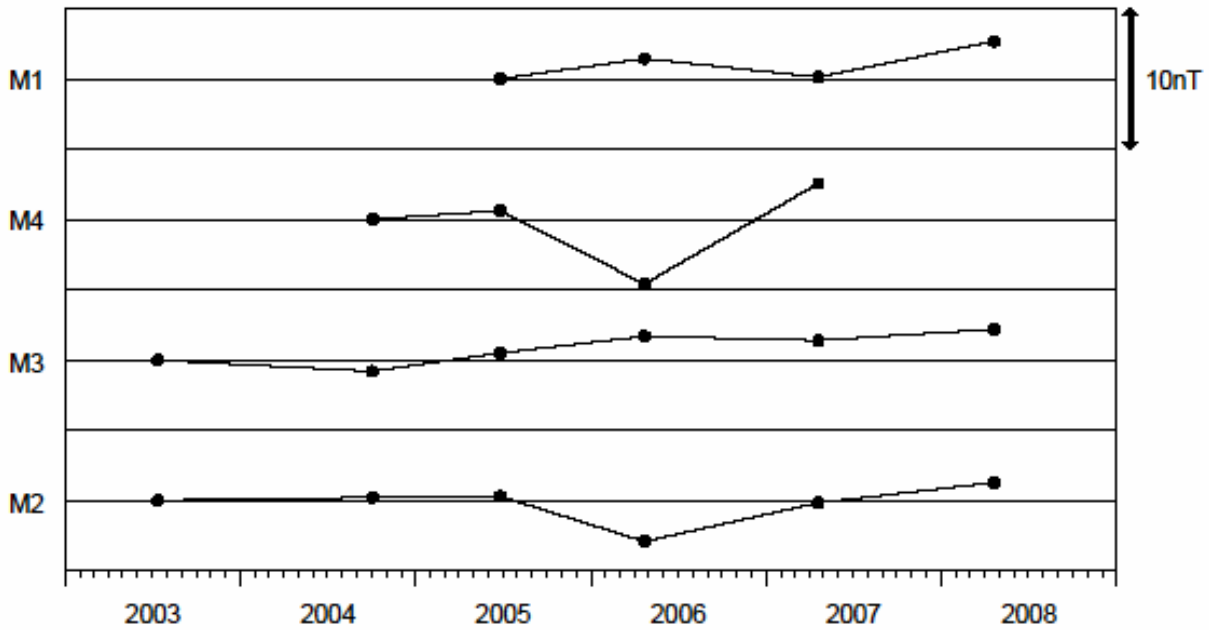


図6 薩摩硫黄島 全磁力繰り返し観測の結果（2003年7月～2008年4月）

・火山活動に起因するとみられる変化はありませんでした。

<補足説明>

火口の北側で全磁力値に増加傾向（図中、上向き）、南側で減少傾向（図中、下向き）が見られた場合、火口直下での温度上昇があると考えられます。

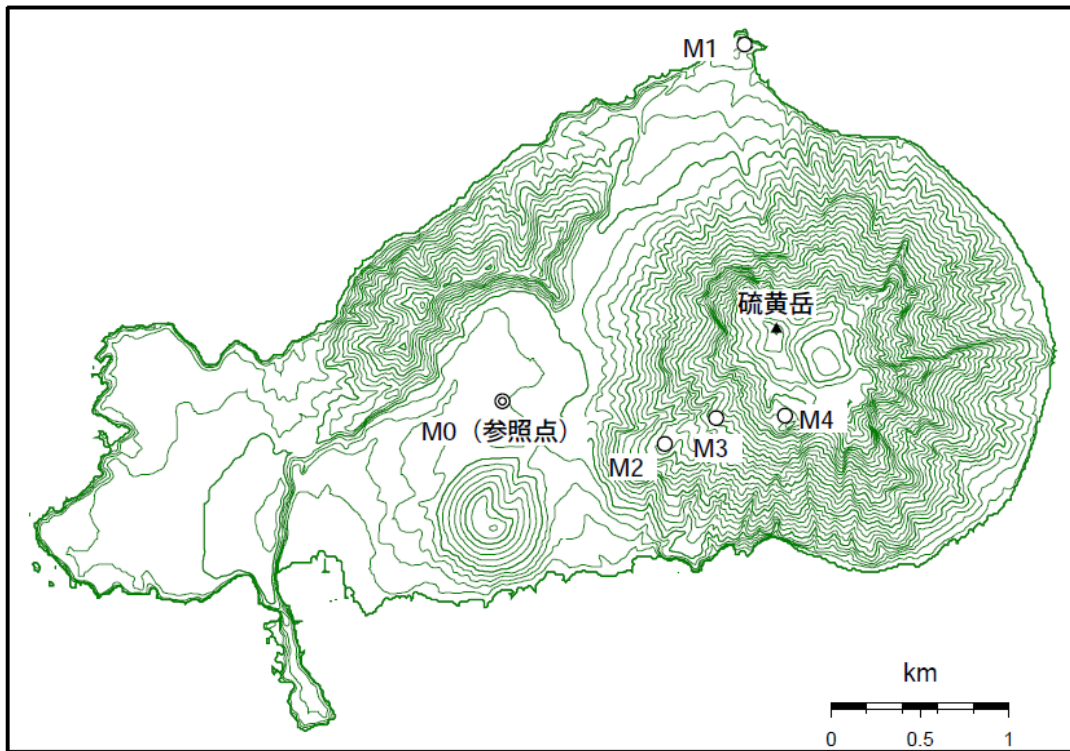


図7 薩摩硫黄島 全磁力繰り返し観測点配置図